

中泊町立薄市小学校 なかどまり うすいち 六年

盲導犬とともにくらす

金山 かなやま 聖渚 せいな

みなさんは盲導犬を知っていますか。盲導犬は、目の見えない人の歩行のお手伝いをする犬です。本で読んだり、テレビ番組で見たり、最近ではコマースヤルに登場しているので知っている人も多いでしょう。でも、実際に見たことのある人は少ないのではないのでしょうか。実は、ぼくの住む北国の小さな町にも盲導犬はいるのです。

おじのもとに盲導犬が来て、すぐく変わりました。以前、おじは白杖という杖を使って歩いていましたが、よくものにぶつかっていました。白杖は長いうでのようなもので、ものにふれたときの振動や音でそこに障害物があることが分かります。しかし、全てにふれることはできずぶつかってしまうのです。慣れている場所でも、目をつぶったらどこに何があるのか分からずぶつかってしまうでしょう。慣れていない場所ならもっと大変です。ですから、以前のおじはあまり外出することはありませんでした。ところが、今ではとても行動的になりました。盲導犬のおかげです。

盲導犬ユアラがおじの家に来たのは、昨年十月です。おじは仙台まで行き、盲導犬との相性を確かめ、合格したのです。初めて会った日から、ユアラはおじの指示を聞き、おじはユアラをとんでも気に入ったそうです。お互いを信頼できる相手だと認めたのだと思います。

十一月の参観日、五年生のぼくは、道徳の勉強をしました。朝、母が、

「今日の参観日、見に行くからがんばって。」

といいました。ぼくは、道徳の教科書を読みながら、まだこないのかと待っていました。すると、ろう下から聞き慣れたカウベルの音が聞こえてきました。まさかと思いましたが、教室に入ってきたのはユアラとおじでした。ぼくは、

(何で来たの。)

と思い、びっくりしたと同時に照れくさくなりました。ぼくの学校は階段などの段差が多く、廊下はせまいので、お

じにとつては危険がいっぱいです。もしも、ユアラがいなければ決してくることはなかったでしょう。ぼくは、背中に、母とおじとユアラの視線を感じて、発表するのにきん張してしまいました。授業の後、おじは、

「がんばったね。」

とほめてくれました。

ユアラはとても人なつっこい犬で、仕事以外のときはぼくの遊び相手になっています。すぐおなかを出して、

(なでてちょうだい。もつともつと。)

と甘えてきます。ユアラがきたことで、おじだけではなく、家族みんなが明るくなった気がします。

でも、まだ世の中には盲導犬のことを知らない人がたくさんいます。おじとラーメン屋に行ったとき、入り口で、

「犬はだめです。」

と言われました。

「盲導犬なんです。」

と言いましたが、店員は聞き入れてくれませんでした。盲導犬は法律でどこでも入ることができると決められているのに、拒否されて本当に悲しかったです。腹を立てたり文句を言ったりはしません。ただ、ぼくは、世の中の人に、もつと盲導犬に興味をもつて、正しく知ってほしいと思っています。ぼくとおじとユアラが一緒にどこへでも行けたら、どこに行こうかな。行ってみたいところ、してみたいこと、

ユアラに見せてあげたいことがたくさんあります。そんな日がくることを願っています。

成田なりた高等学校ふざく付属小学校 二年

おばあちゃんのヘルプカード

松平まつひらとわ

わたしのおばあちゃんは、おもいじんぞうびようで、じんこうとうせきをうけています。

おばあちゃんは、一しゅう間に三回、びょういんに行っています。びょういんにいくまえは、とても元気でわたしとあそんでくれます。とうせきがおわると、ぐったりとして、あまりうごけません。おばあちゃんは、とつてもつらそうです。わたしは、かなしい気もちになります。

この前 おばあちゃんとおかいものに行きました。ながくあるくのがたいへんなので、わたしは、ベンチをさがします。なかなかベンチが見つかりません。

おばあちゃん、すわれるベンチがないよー、どうしよう。「だいじょうぶだよ、とわちゃん。ゆっくりでいいよ。」とおばあちゃんは言いました。わたしがベンチをさがしていると、知らないおばさんが、声をかけてくれました。

「このベンチどうぞ。」

「えっ、いいのですか。ありがとうございます。」わたしは、大きな声でおばあちゃんをよびました。おばあちゃんは、えがおいっぱい、

「とわちゃん、ありがとね。」と、よろこんでくれました。わたしも、うれいきもちになりました。

ベンチにすわっておばあちゃんをつめたいジュースをのんでいるとき、おばあちゃんのバックに、いつも赤いカードの上に、ハートとじゅうじのマークのキーホルダーがついています。

わたしは、おばあちゃんに

「これ、なあに。」とききました。

「これは、ヘルプカードというんだよ。」と、おばあちゃんは、ヘルプカードについて、色いろなお話をしてくれました。おばあちゃんが一人でおでかけしているとき、こまることがあったら、たすけてくださいという、あいずになるんだよ。ヘルプカードにはおばあちゃんのなまえ、びよ

うきのなまえがかいてあります。もしかしたら、ベンチを
ゆずってくれたおばさんは、おばあちゃんのヘルプカード
に気がついてくれたのかもしれない。

わたしは、いつもおばあちゃんといっしょにいられます
ん。みなさん、おそとでヘルプカードをつけていた人がい
て、こまっていたら、たすけてください。もしかしたら、
わたしのおばあちゃんかもしれません。おばあちゃんにな
くても、みなさんのやさしいきもちが、みんなの心をあた
たかくしてくれます。よろしくおねがいます。おばあちゃ
ん、またいっしょに、おかいものにいこうね。いつまでも、
元気でいてね。

こなん
湖南市立岩根小学校 三年

みんなと同じ、でもちよつとちがう

やぎ
屋宜 チファ

わたしは、なぜかはよく知らないけれど、だいぶ前から足がかたくて思っているように動かせません。そうぐのついた重いくつをはいています。手もかたくて力がくうつと入ってしまうので、とてもつかれます。そうぐのくつは重くてとても走りにくいです。みんながかんたんに走っているから、みんないいなと思います。かいだんを登るのもしやがむのも、みんなかんたんなのに、わたしは時間がかかります。くつをはくのだってわたしはたいへんです。みんなは早く字がかけるけどわたしはきれいにかきにくいし、はさみもみんな上手につかえるけれどわたしはとくべつなはさみじゃないとすっかり切れません。みんなはいいな、みんななみになりたいなと思っています。

わたしはふんばれなくて、こげやすいからいつもリハビリに行っています。リハビリではラジオ体操をしたりストレッチをしたりしゃがむれんしゅうをしたりします。後ろ歩きはかかをつけて歩かないといけないし、ちようざ

はひぎを上げないように気をつけて練習しています。わたしは足をひきずって歩いているからみんなよりこげやすくそうぐをつけています。正しく歩くためです。でもおもくて歩きにくいからそれもれん習しています。リハビリに行くのはあたり前だと思っていたけど、自分だけなんだとわかって、少しいやになってきました。

みんな「ちふあちゃん、足わるい」といいます。わたしはすごくいやな気もちになります。わたしは自分の足がわるいと思いません。わたしの足はふつうでみんなと同じくらいです。おそいけれどちよつとくらい走れるし、手もちよつとは動かせます。はさみもリコーダーもとくべつな物を使ったらみんなと同じようにできます。わたしの手も足もみんなと同じなのに、なんでわたしのだけ悪いってみんなが言うのかわかりません。

体いくでリレーをしています。わたしはいつもぬかされます。本当は体いくがすきだったのに、どんどんできない

ことが多くなったり、わたしをぬかした人が「イエーイ」と言ったりするからいやになってきました。わたしが走っているのを見てないしょ話をしたり笑ったりしないかすごく心ばいんです。おにごっこをしてもみんなにねらわれたりすぐにタッチされたりするのもいやだけれど、わたしだけ何もしてもらえないのもいやで、あまりみんなとも遊ばなくなりました。体いくにも行けない日がたくさんありました。

ママに「なんでわたしだけ足がわるいの？」とか「みんなは足がわるくないのに」と言うとママは「ちふあはみんなができることができないかもしれないけれど、みんなができないことでちふあができることもある。絵も上手だし歌もきれいよ」と言ってくれました。先生はクラスでわたしの話をしました。自分で話すのは心ばいだから先生がせつめいしてくれました。その後のリレーは友だちが「はやかったね」「がんばったね」とほめてくれました。ほっとしました。

わたしは、みんなにわたしのことをもっとちゃんと知ってほしいです。たすけてほしい時はあまりなくて、がんばってやっているから、わたしの足もだいじょうぶなことを見て知ってほしいです。「ちふあちゃん、やめとき」と言ってくれる友だちもいるけれど、かっさにできないと決めないでほしいです。道ぐがあつたらできることもあるから、

おうえんしてほしいです。みんながちゃんとわかってくれるようになってくれたらいいと思います。